

## 農作物を知る レポート

個人でできる被災地の農業再生の支援としてすぐに思いつくこととしては、被災地産の農作物を優先的に買うことが挙げられる。しかし、これを遂行するに当たって、特に福島県産の農産物については放射能汚染という大きな障害が存在する。

震災時に原発事故が起こってから、自分が「福島」と聞くと、どうしても放射線に汚染された危険な土地である、とってしまう。それは、元々福島の浜通りに住んでいた人たちが原発事故後に強制的に退去させられて今も戻れず、その中にはもう福島に戻ろうと思っていない人がいることも原因なのかもしれない。このような認識から、いざ福島県産の農作物や水産物を食べる、また福島にボランティア活動をしに行くとなると、何となく不安を感じてしまう。

しかしながら、このような福島に対する見方は、間違いが含まれている。震災後に立ち入り禁止区域に指定されていた場所の中には、今は指定が解かれて、退去させられた住民が戻ってきた場所が存在している。さらに、福島県産の農産物といっても、それは汚染をあまり受けてない会津地方で収穫された物かもしれない。よって、自分が被災地に対して持っている誤った見方を正していくことが、自分自身でできる被災地の再生支援の一つかもしれない。また、見方を正したら、それを友人や家族などの身近な人に伝えていくことも重要である。

そこで、自分なりに、被災地産の農作物の安全性や、福島に数日滞在することによる放射能による人体への影響はどれほどなのか、ということを考えてみた。まず、被災地産の農作物の出荷は、残留放射能の検査とその基準値設定によって規制がかかっている。さらに、原発事故発生の約一年後、その基準値が放射性セシウムについて **1kg** 当たり **100** ベクレルと初期の **5** 分の **1** までに引き下げられた。(放射性ヨウ素はもう検出されなくなっている。) この基準値は、国際的にも厳しい値で、米国の基準値の **12** 分の **1** となっており、基準値を超える値が検出された食品は出荷停止となる。さらに、福島県で「県民保険調査」の一環として行われている内部被曝調査において、全体の **99%** 以上が **1mSv** 未満という結果が出ている。このことから、福島県産の農作物を食べてもまず安全であるといえる。つぎに、福島に滞在することによる健康被害について考える。原発事故による福島県民の年間累積線量の増加分は事故後 **1** 年で約 **5mSv** 以下とされており、この放射線量では健康被害は認められていない。さらに、中国にある陽江では住民は年間 **6.4mSv** の被曝を受けるが、他の地域と比較してがんのリスクの増加は認められていない。このように、福島に数日間いるだけでは、放射線による健康被害は起こりにくいと言える。

被災地に行っても健康上の影響はないと分かったので、「被災地の現状を知る」ためにも、実際に現地に足を運んでみるべきだろう。しかし、もし被災地に行こうとするに

しても、個人にできることには限りがある。そこで、被災地の復興作業をしようと思うなら、友達を誘って一緒に行くことや、ボランティア団体に参加するなど、なるべく集団で行くようにすることが大事だと考えられる。

同様に、被災地の農業再生につながるからと言って、除染作業で生ずる廃土の問題への対処や、被災地産の農作物の安全性の国外へのアピールを個人がすることは困難だろう。結局は、被災地に対して抱いている誤った認識を改め、それを周囲に広めていき、さらに被災地産の農作物をできるだけ買うことが、私たちのできる被災地の農業再生手段となってくるだろう。

---

## 参考文献

1. 首相官邸 「福島県産の食品の安全について」  
[http://www.kantei.go.jp/saigai/senmonka\\_g31.html](http://www.kantei.go.jp/saigai/senmonka_g31.html) (2015/5/25 アクセス)
2. Global Energy Policy Research  
「低線量の放射線を長期間浴び続けると健康被害が起こるのか? —パイロット、放射線技師など医学調査の researched — 被害見当たらず」  
<http://www.gepr.org/ja/contents/20120220-03/> (2015/5/25 アクセス)